

社外取締役 × 社内取締役 対談



企業価値の持続的向上に向けた 取締役会の役割

— 近 浩二社外取締役 × 里見 宣彦取締役 —
(監査等委員)

社外取締役(監査等委員)
近 浩二

取締役
里見 宣彦



はじめに

近 ■ 本日は、社外取締役と社内取締役という異なる立場から、当社グループの持続的成長と企業価値向上に向けた方向性について議論させていただきたいと考えています。まず、新任取締役としての抱負をお聞かせいただけますでしょうか。

里見 ■ これまでの海外駐在経験を通じて、地域ごとに市場環境や顧客ニーズが異なることを実感してまいりました。「Vision2030」の実現に向けて、リージョナル経営を推進することで、各地域の特性に合わせたマーケティング活動や事業展開を強化し、グローバルでの事業拡大につなげていきたいと考えています。また、変化の激しい事業環境においては、現状にとどまることなく変革への挑戦を続けることが重要です。製品・加工・装置という3つの事業の枠を超えた「融合」を推進し、グループシナジーの最大化を図っていきたいと考えています。

近 ■ 里見取締役がお話しされたとおり、各地域の特性を生かしたリージョナル経営の推進と変革への挑戦は、持続的な成長を実現するための重要な要素だと思いますので、具体的な取り組みやその進捗について、社外取締役の立場から、建設的な議論を深めていきたいと考えています。

成長戦略について

近 ■ 当社グループの成長戦略について、どのような方向性を描いていますか。

里見 ■ 当社グループの強みである技術力と現場力を軸に、既存市場の深耕と新規市場の開拓の両面から成長を実現していきます。特に、2025年に開所した新総合技術研究所(Parker Innovation Center)を中心に、グループ各社が持つ技術やノウハウを結集することで、新たな製品・サービスの創出を加速してまいります。また、当社グループは、薬剤開発、設備設計、受託加工を一貫して提供できる「三位一体」の事業体制を有しており、これは競合他社にはない強みであると考えています。この強みを最大限に活用し、単独事業での成長ではなく、グループ一体での顧客価値創出を推進してまいります。

近 ■ 持続的な成長に向けては、新総合技術研究所(Parker Innovation Center)を核とした技術革新をはじめ、インドなどの海外市場の拡大、Parker MedTech(株)などの新規事業の展開、パーカプロセッシング(株)の設立をはじめとする既存事業の再構築、そしてAIを活用した生産性向上の5つが重要な成長戦略の柱であると考えています。これらの取り組みを着実に進めることで、「Vision2030」の実現につながるものと期待しています。

人的資本経営について

近 ■ 人的資本経営の強化についてはどのようにお考えですか。

里見 ■ 海外企業の開拓やコロナ禍における事業縮小への対応などの経験を通じて、「現地・現場の人材が企業価値の源泉である」という点を強く実感してまいりました。女性や外国人を含む多様な人材がグローバルに活躍できる環境の整備は、成長戦略を支える重要な基盤と考えています。その一環として、事業部門や国内外グループ間での人材交流を通じて多様な知見を融合することで、変化への対応力を高めてまいりたいと考えています。

近 ■ 例えば、女性やシニア、外国人など多様な人材の活躍など、社会環境の変化や、多様な働き方の広がりを背景に、個々の事情や選択を尊重した柔軟な働き方への対応も求められています。こうした環境変化を踏まえ、人的資本経営について、経営戦略の重要テーマの一つとして、取締役会として議論を重ねていきたいと考えています。

環境課題への取り組みについて

近 ■ 持続可能な社会の実現に向けた価値提供についてお聞かせください。

里見 ■ 当社グループの表面改質技術は、製品寿命の延長やエネルギー効率の向上を通じて環境負荷低減に直接貢献しており、本業そのものが環境価値を生み出しています。例えば、部品の耐摩耗性や摺動性の向上により、エネルギー効率の改善や省エネルギー化に寄与するなど、製品の使用段階において

環境負荷の低減に貢献しています。また、高効率な熱処理設備や低温での化成処理プロセスの開発など、省エネルギー化に貢献する生産方法の開発にも取り組んでまいります。

近 ■ 表面改質技術は、環境課題の解決に大きく貢献できる分野だと認識しています。「地球上に限りある資源の有効活用を図り、あらゆる素材の表面改質を通じて、資源の新しい価値を創造し、地球環境の保全と豊かな社会作りに貢献する」との企業理念に基づき、本業を通じた環境貢献を、当社グループの企業価値として発信していくことが重要だと思います。

取締役会の実効性

里見 ■ 社外取締役から見て、取締役会の実効性についてはどのように評価されていますか。

近 ■ 現在、取締役会では、社内外のバランスの取れた構成により、活発かつ実質的な議論が行われていると感じています。また、重要案件に関する事前の説明など、取締役会と執行側の連携も良好で、意思決定の質とスピードが向上しています。今後は、中長期的な視点での成長戦略や資本効率の向上について、さらに踏み込んだ議論を行っていくことが重要だと考えています。

社外取締役への期待

近 ■ 社外取締役との関係についてどのようにお考えですか。

里見 ■ 社外取締役の皆さまからは、当社グループとは異なる視点や専門的な知見に基づくアドバイスをいただくことで、意思決定の質が大きく向上していると感じています。また、社内だけでは気づきにくい観点から問いや示唆をいただくことで、議論がより深まっていると認識しています。今後も、率直な意見交換を通じて、取締役会の実効性を高め、より良い意思決定を行っていただきたいと考えています。



近 ■ ありがとうございます。取締役会としても、率直な対話の積み重ねが、取締役会の実効性向上につながると感じています。里見取締役には、事業の実情や現場の考え方を取締役会に伝えていただくとともに、社外取締役と執行側との橋渡し役として、双方の理解を深めながら議論の充実に貢献いただくことを期待しています。

IR戦略について

近 ■ IRへの取り組みについてはどのようにお考えでしょうか。

里見 ■ これまでに研究開発投資や海外投資の拡大など、将来の成長に向けた取り組みを進めてまいりましたが、これらの取り組みが、将来の収益機会の拡大にどのようにつながっているのかという点や、技術力やグローバル展開力、製品・加工・装置が一体となった事業体制など、当社グループの強みについて、投資家の皆さまに分かりやすく伝えていきたいと考えています。また、表面改質技術を通じた社会貢献についても、引き続き丁寧に発信していきたいと考えています。

ステークホルダーの皆さまへ

近 ■ 社外取締役として、株主・顧客・従業員をはじめとするさまざまなステークホルダーの視点を大切にしながら、中長期的な企業価値の向上に努めてまいります。今後も、取締役会の実効性をさらに高めるとともに、透明性のあるガバナンスのもとで、当社グループの持続的な成長を支えていきたいと考えています。

里見 ■ リージョナル経営と変革への挑戦をグループ全体で推進することで、「Vision2030」の実現に向けた成長戦略を着実に進めてまいりたいと考えています。また、ステークホルダーの皆さまとの対話を大切に、いただいたご意見を経営に生かしていくことで、企業価値の向上につなげていきたいと考えています。